

流体総第18号
2025年3月13日

各位

東北大学流体科学研究所長
丸田 薫
(公印省略)

流体科学研究所教員公募について（依頼）

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、この度本研究所では、下記の要領により教員を公募することになりました。

つきましては、貴学及び関係機関等に適任の方がおられましたら、ご推薦賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

1. 専門分野及び公募人員

所属研究部門	研究分野	公募人員
統合流動科学 国際研究教育センター	反応性流動システム 研究分野	助教 1名

2. 研究・業務内容

次世代の推進システムおよびエネルギーシステムにおける化学反応を伴う流動現象の解明およびモデル化の研究に取り組むとともに、システムの設計開発へのモデルの応用に関する研究・教育を推進する。

3. 応募資格

着任時に博士の学位を有し、上記の専門分野で顕著な業績を有する者。(別紙参照)

4. 任用予定年月日 2025年8月1日以降のできるだけ早い時期
(東北大学教員の任期に関する規程第2条に従い、任期は8年、再任の場合は2年とし、1回を限度とする。)

5. 公募締切日 2025年5月23日(金) 正午(日本標準時) 必着

6. 応募書類

(I) 履歴書

(II) 業績リスト※

- ① 学術論文（掲載誌の最新のインパクトファクターも記すこと。）
- ② 解説論文（同上）
- ③ フルペーパーで査読を受けたプロシーディングス論文
- ④ 著書
- ⑤ 国際会議・国内会議における招待講演（本人が講演したもののみ）
- ⑥ 国際会議での発表状況（⑤に該当するものを除く。発表者を明確にすること。）
- ⑦ 国際会議あるいは国内会議における実績（組織委員・実行委員等）
- ⑧ 特許取得状況（出願あるいは登録の別も記すこと。）
- ⑨ 海外および国内の研究者との共同研究実績
- ⑩ 受賞
- ⑪ 競争的研究資金の獲得状況
- ⑫ その他特筆すべき業績

※ 作成に当たってはそれぞれの項目ごとに改ページを行い、①から⑥については共著者名を、⑧については共同発明者を全て記入し、応募者にはアンダーラインを付すこと。また、①から⑧については応募者の分担した役割を明記すること。①から③についてはサイテーション数を適宜記すこと。その際、サイテーション数の出典を明記すること。①～⑫を一つの PDF ファイルにまとめること。

(III) 上記①から④の主要な業績 5 件のリプリント（電子ファイル）

(IV) 主要業績 5 件以内の概要（各 500 字程度）

(V) 当該研究部門に着任した場合の研究・教育に関する抱負（機械工学関連科目に関するこれまでに教育等の経験があれば具体的に記すこと。）

(VI) 応募者に関する問い合わせ先の氏名、勤務先、役職、住所、電話番号、E-mail アドレス（3 名程度）

上記書類は、すべて A4 版横書きの PDF ファイルで、それぞれ別ファイルとすること。全てのファイルを CD-R や SD メモリーカード、USB フラッシュメモリなど適当なメディアに収納し、簡易書留で郵送すること。封筒に「反応性流動システム研究分野教員公募応募書類」と朱書きで記載すること。

郵送によらず、適当なファイル転送サービスと電子メールを用いた提出も可とする。電子メールの件名に「反応性流動システム研究分野教員公募」と記載すること。受領の通知がない場合には連絡すること。

選考の過程で、追加資料の提出を求められることがある。応募書類は返却しない。面接が必要な場合には、オンラインによる面接も可とする。

7. 応募の問い合わせ先及び応募書類の提出先

〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目 1 番 1 号

東北大学流体科学研究所

所長 丸田 薫

TEL 022-217-5300

FAX 022-217-5311

E-mail ifs-director@grp.tohoku.ac.jp

なお、流体科学研究所の概要については、<https://www.ifs.tohoku.ac.jp/> をご覧下さい。

想定する研究教育内容に関する追加情報

統合流動科学国際研究教育センターは、統合流動科学を学術基盤として、燃料アンモニアやグリーンナノテクノロジーをはじめとする多様な応用分野への展開に向けた研究を行う。フランス、シンガポール、台湾、サウジアラビア、アメリカ合衆国における海外拠点とともに国際共同研究・教育を推進し、社会インパクトを創出するアライアンス型の国際拠点となることを目指している。また、東北大学大学院機械系、工学部機械知能・航空工学科の協力講座として、教員は機械工学関連科目の講義を担当している。

本教員公募により、次のような研究の推進を計画している。

研究部門名 (研究分野名)	研究内容
統合流動科学 国際研究教育センター* (反応性流動システム 研究分野)	次世代の推進システムおよびエネルギーシステムにおける化学反応を伴う流動現象の解明およびモデル化、ならびにシステムの設計開発へのモデルの応用に関する研究 1. アンモニア等の脱炭素燃料における化学反応の解明とモデル化に関する研究 2. バッテリー電解液や冷媒およびこれらに添加する難燃剤の化学反応の理解に基づく発火低減に関する研究 3. 放射光設備を用いた反応中間体の計測および燃焼加熱材料の計測に関する研究

*現在、グリーンナノテクノロジー研究分野、高速反応流研究分野、地殻環境エネルギー研究分野、エネルギー動態研究分野、混相流動エネルギー研究分野、マルチフィジックスデザイン研究分野、反応性流動システム研究分野、流動・材料システム評価研究分野、先進材料・流体設計研究分野、流動ダイナミクス研究分野、次世代電池ナノ流動制御研究分野、統合流動科学技術研究分野、先端統合流動科学研究分野の13分野から構成されている。

別紙 ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン (DEI) について

・東北大学は多様性、公正性、包摂性 (Diversity, Equity & Inclusion : DEI) を向上させる活動を推進しており、多様な人材の積極的な応募を歓迎します。

東北大学 DEI 推進宣言 WEB ページ

<https://dei.tohoku.ac.jp/vision/about/>

・雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律第 8 条に基づき女性教員の在籍率を改善するための措置として、公正な評価に基づき職務に必要なとされている能力が同等と認められる場合は、女性を優先的に採用します。

・学生および教職員が学業・研究・職務の遂行において、多様な性を尊重する環境を実現することを目的として、その方針と具体的な対応の内容を示した「東北大学-みんなが主役-多様な性に関するガイドライン」を制定しています。

ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン推進センターWEB ページ

https://dei.tohoku.ac.jp/vision/consulting/for_minority/

・東北大学には全学教職員が利用できる川内けやき保育園(定員 22 名)及び青葉山みどり保育園 (定員 116 名)の他、大学病院所属の職員等が利用できる星の子保育園(定員 120 名)があり、全国の国立大学の事業所内保育施設として最大規模の保育環境が整っています。また、大学病院内に軽症病児・病後児保育室もあり、全学教職員が利用できます。

・その他、男性教職員の育児休業等促進策を含めた本学の両立支援、研究支援等の詳細及び共同参画の取組については、下記 URL をご覧ください。

ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン推進センターWEB ページ

https://dei.tohoku.ac.jp/vision/consulting/for_family/

人事企画部 WEB ページ

<https://c.bureau.tohoku.ac.jp/jinji-top/external/a-4-kosodate/>